

【取組内容①】 学校間の壁を越えた協働的な学び

1. 本実践のねらい

「自然の恵みと火山災害・地震災害」と「地域の自然災害」について、理科の学習内容を基盤として地域の防災意識を向上させるプロジェクト型の単元を構想した。また、他校と協働的に本実践を行うことで、より多くの人々の防災意識を向上させることができると考える。

2. 実践内容

2-1. 課題設定

阪神淡路大震災と県西部地震の被害状況の比較を通して、防災に関する取組の重要性を理解する。今後、県西部に起こりうる地震の原因（2種類の断層）について理解し、地域の防災・減災に向けたプロジェクトを選択する。

2-2. 情報収集、整理・分析、まとめ

まず、震災誌や県震災対策アクションプランなどを情報源にして、現在と過去の事例やその成果と課題について、順序立てたり比較したりしてまとめる。

次に、自分たちのアイデアを実践して効果を分析したりスライドにまとめたりする。

そして、自分たちの実践内容についてプレゼンの練習を行う。

2-3. 表現

市内の中学校とオンライン交流を行い、それぞれのプロジェクトの実践内容について意見交流した。

9月に行われた地域の防災イベントに参加して、自分たちのプロジェクトを実践したりプレゼンしたりして参加者（学校関係者、保護者、小学生、保育園児、地域の方々）の防災意識を高めようとした。

2-4. ふり返り・改善

実践を振り返って、自己の能力の変容（特に、情報活用能力）を実感した生徒が多かった。理科の授業での学び（実践）を日常生活で生かそうとする生徒の姿が見られた。

3. 成果

- ・他校とのオンライン交流を通して、互いのプロジェクトの良さに気付いた（視野や考え方が広がった）。また、プレゼンの工夫点（スライドの構成や表現力）を学び合うことができた。
- ・地域の防災イベントに参加して、自分たちのプロジェクトを実践したりプレゼンしたりして、地域の人々の防災意識を向上させることができた。

※公開授業（オンライン参加者もあり）にすることによって、校内外の教職員に生徒の可能性（情報活用能力、理科の学習を実社会に生かす力）を伝えることができた。

【地域の減災・防災Mission】

《班活動のゴール》

(1) 東山中を避難所として中学生だけで運営せよ！
 ・大規模地震を想定（家屋の倒壊、インフラの破壊）
 ・季節は冬、1週間の断水と停電、4日目に水と食料だけ届く
 ・避難は60世帯200人、赤ちゃん、妊婦、介護者が混在
 ⇒ 校長、尚徳中、学校評議員（地域の人）
 ⇒ こうしたら、みんなが安心して避難生活できるという提案

(2) 学校の避難訓練をリメイクせよ！
 ・地震、水害を想定
 ・時期は冬場、学校で？家で？日中？夜？
 ・対象者は、中学？小中？地域？
 ・どのように運営する？役割分担は？
 ⇒ 教頭、防災主任、尚徳中、学校評議員（地域の人）
 ⇒ こうしたら、みんなでもっといい避難訓練ができるという提案

(3) 防災意識が高まるプロジェクトを実施せよ！
 ・実際に対象者によってみる、効果を検証（成果と課題）する
 ・対象者は、小学生何年生？同級生？家の人？
 ⇒ 総合主任など、尚徳中、学校評議員（地域の人）
 ⇒ こうしたら、〇〇の防災意識が上がります！という実践結果

【授業構想】

① テーマ設定、情報収集（基礎知識）
 ② 情報共有、活動や提案の方向性
 ③ アイデアの具現化
 ④ //
 ⑤ 冬休み（タブレット持ち帰り）
 ⑥ 情報共有、オンラインプレゼン練習
 ⑦ 尚徳中学校とオンライン交流
 ⑧ 確認テスト、ふり返り

基礎知識

① 震災誌
 ② アクションプラン
 ③ 米子市 防災マップ

図1 単元の流れ（生徒資料）

より良い避難ができるように

～避難訓練のリメイクを成功させよう！～

一年二組（6班）

プレゼンの流れ

1 なぜ地震は起こるのか 災害が起きた時の危険性、被害
 2 Missionと現時点での進行状況
 3 私たちの提案
 4 振り返り・感想

図2 生徒提案スライド

図3 オンライン交流